

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4170200382		
法人名	株式会社 サンライズ		
事業所名	グループホーム伸&茉衣		
所在地	唐津市佐志字石ケ元2119番2 (電 話) 090-5736-2626		
評価機関名	社団法人 佐賀県社会福祉士会		
所在地	佐賀市八戸溝一丁目15番3号		
訪問調査日	平成 21年3月27日	評価確定日	平成 21年5月5日

【情報提供票より】(平成21年3月8日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 17 年 3 月 1 日			
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18	人
職員数	12 人	常勤 9 人, 非常勤 1 人, 常勤換算	11.8	人

(2)建物概要

建物構造	木造
	1 階建ての 1 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	28,200	円	その他の経費(月額)	15,000	円
敷金	無				
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(50,000 円)		有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	円	昼食	円	
	夕食	円	おやつ	円	
	または1日当たり		1,160	円	

(4)利用者の概要(平成21年3月27日現在)

利用者人数		16 名	男性	3 名	女性	13 名
要介護1		3	名	要介護2	1	名
要介護3		8	名	要介護4	4	名
要介護5			名	要支援2		名
年齢	平均	86 歳	最低	72 歳	最高	100 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	唐津第一病院(医科、歯科)
---------	---------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

季節の移り変わりを身近に感じられる自然豊かな場所で、介護老人保健施設の隣に平屋作りのグループホームがある。理念である「高齢者の方を尊敬し 思いやりを持ち 安らぎのあるグループホームを目指します」に添った支援が出来るよう、職員全員が積極的に取り組まれている。ホーム内は明るく清潔感があり、ゆったりした時間の中で、入居者と職員が家族のように支えあいながら生活されている。また、地域活動にも積極的に参加し、地域に開かれたグループホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	入居者の生活の質を向上させるための改善案や新しい取り組みの提案をし、職員全員で話し合いながら取り組まれている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者が職員の話を聞きながらまとめられ、全職員が目を通し、日頃の介護支援のあり方を再確認する場として活用しながら、改善に取り組まれている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	2ヶ月に1回実施され、ホームでの行事や生活状況の報告や職員の紹介が行われ、地域に密着したグループホームを目指し、意見交換や地域情報の収集の場として活用されている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族の面会時や「のぶまい便り」を毎月発行し、写真や生活状況、健康状態、預かり書等の報告が行われている。また、家族の会話の中から意見を吸い上げ運営に反映されている。家族がより安心されるためにも、職員等の情報を伝えることにより、よりよい関係作りが期待される。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	入居者からなる「おたっしやコーラス隊」を結成し、地域にある保育園や福祉祭り、敬老会に参加し積極的に交流が図られている。

2. 評価結果（詳細）

（ ☐ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「高齢者の方を尊敬し 思いやりを持ち 安らぎのあるグループホームを目指します」という理念をホーム内に掲示し、笑顔あるグループホームを目指し日々努力されている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	朝礼時に理念の唱和を行い、気づきや言葉使いについて、管理者より伝えられ、理念を念頭に置きながら日々の業務に取り組まれている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	入居者で結成された「おたっしやコーラス隊」活動を通じて近隣の施設、保育園との交流ができています。地域行事にも積極的に参加されている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価、外部評価を通して日頃の介護支援のあり方を再確認する場として活用し、改善に取り組まれている。自己評価は管理者が職員の話を聞きながら作成し、全職員が目を通し理解されている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回実施し、第4水曜日15時と日時を固定することで、約10名の参加があり、ホームでの状況(スライドを使用)、職員の紹介、行事等の報告が行われ、意見交換や地域情報の収集の場となっている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	定期的に市役所に相談や協力依頼、状況報告を行い、情報交換が行われている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の面会時や写真を多く取り入れた「のぶまい便り」を毎月発行することで、生活状況、健康状態、預かり書等の報告が行われている。また、状態変化があった時は、その都度電話連絡し報告されている。	○	家族が安心される為にも、職員等の情報を伝える事で、よりよい関係作りが期待される。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時に状況報告や会話の中で意見を吸い上げ運営に反映されている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動や離職の際は、入居者の状態に合わせ個別対応し、負担が軽減できるように職員とも話し合いながら支援されている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内での内部研修や医療研修等、合同研修が行われている。外部研修に関しては掲示し、積極的に参加できるように体制も整え支援されている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	「おたっしやコーラス隊」活動を通じて近隣の施設やグループホームとの交流が行われ、サービスの質の向上に努められている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	慣れるまでは職員が傍に寄り添い、コミュニケーションをとりながら、安心して過ごす事ができるよう個別的に支援が行われている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者と同じ時間を共有し、クラブ活動や食事の片付け、タオルたたみ等、いろいろな活動を通して感謝し、共に喜び、楽しみながら支え合う関係ができています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者の会話を大事にし、意向の把握に努められている。意思表示が困難な方は、家族や馴染みの職員からの情報提供をもとに、総合的に判断し支援されている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族の意向は事前に確認し、入居者の希望は普段の生活状況から把握し、サービス担当者会議やカンファレンスを行い、個別的な介護計画書が作成されている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	評価は3ヶ月、計画見直しは6ヶ月と期間に応じた見直しが行われている。また、状態変化が生じた場合は、その状態に応じた新たな介護計画が作成されている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族対応ができない病院受診や個別の買い物等、柔軟に対応されている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	同法人の病院がかかりつけ医となり医療面の管理をされているが、入居者、家族が希望する医療機関での継続受診ができるように支援されている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に家族への説明を充分に行い、医療ニーズの度合いによって対応されている。本人・家族の同意のもと、終末期は医療機関へ移行する方針を職員と共に共有されている。	○	家族への説明は行われているが、重度化や終末期の指針等を文書化することで、関係者全員が共有し、対応されることを期待する。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者への尊敬の念を持ち、言葉使い等気を付けながら対応されている。個人情報の取り扱いについては、ホーム内に掲示し、家族にも説明し同意を得られている。書類等は事務所に保管されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者のペースを尊重し、自由に過ごされている。その方らしい過ごし方の支援を大事にされている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は入居者の意見や希望も取り入れ、職員と会話をしながら食べられている。また、食事の準備や片付け、食器拭き等、できる範囲で一緒に行われている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には入浴日が決まっているが、入居者の希望に応じて柔軟に対応されている。冬場は床暖房がはいり、安全に心地よく入浴できるように支援されている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者の状態に応じた新聞折りや洗濯物たたみ等、職員と一緒に行われている。また、映画を観たり、毎月の行事では一緒に笑い楽しむ支援が行われている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日は、ホーム周辺を散歩したり、ドライブや買い物など、外出の機会を多く作られている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵はかけず、職員の見守りの中、自由に出入りされている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	毎月、避難経路確認の為に避難訓練が実施されている。夜間想定での訓練も行われ、近隣施設にも協力を働きかけられている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランス、食事形態は、法人内の栄養士にアドバイスを受けながらホーム内でも話し合いを持ち、入居者の状態に応じた食事提供が行われている。摂取量の把握に努められ、水分補給は摂取機会を多く作り支援されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下には行事の写真や季節の花を飾ったり、超音波加湿器が設置されている。また、子ども達の写真がたくさん飾ってあり、孫を思い出し穏やかに過ごされるように工夫されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッドのみ設置され、持込みの制限はない。入居者の馴染みの物を置き、安心して過ごす事ができる空間作りがなされている。		